資料5

船井電機跡地施設整備基本計画（案）パブリックコメント実施結果（概要）

１．意見募集の概要

本計画（案）に対し、市民の皆様から広くご意見を伺うため、以下のとおりパブリックコメントを実施しました。

(1) 募集期間 令和8年2月12日（木）～3月13日（金）
(2) 意見提出件数 19件
(3) 提出者数 21名（連名提出を含む）

２．提出者の属性

(1) 地域別　池田町：11名、三野町：5名、井川町：4名、記載なし：1名
(2) 年代別　30代：1名、40代：2名、50代：3名、60代：3名、70代：6名、90代：1名、記載なし：5名
(3) 職業別　無職：4名、自営業（会社役員等）：5名、農業：2名、主婦：1名、会社員：1名、医師：1名、記載なし：7名

３．意見の内容

(1)　計画全体に関すること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10件
(2)　図書館に関すること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5件
(3)　市民活動施設に関すること・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1件
(4)　ホールに関すること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11件
(5)　施設の性能や運用に関すること・・・・・・・・・・・・・・・ 4件
(6)　徳島県西部総合県民局三好庁舎との合築に関すること・・・ 6件
(7)　その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10件

※分類別の意見は、1提出につき複数あるため、提出件数とは一致しません。

４．ご意見と市の考え方

別添のとおり

別添

「船井電機跡地施設整備基本計画（案）」に対する意見の概要と市の考え方

NO	意見の概要	意見に対する市の考え方
1	人口減少傾向の市に、多目的ホールの必要性は懐疑的に思える。 船井電機跡地には AI サーバーの誘致が適しているとマイクロソフトの AI Copilot が回答した。AI サーバーは隣の古池を活用できる。 ■市の負担（最小限） ･土地の提供（売却 or 長期貸与） ･池の安全管理（フェンスなど） ･電力会社と通信会社とのインフラ調整 ･企業誘致の窓口業務 ■企業が建物＋設備に 30～150 億円 投資すると、 ･固定資産税：年間 1～3 億円 ･雇用：20～40 人 ･地域経済効果：年間 3～5 億円 多目的ホールは、永続的な維持管理の財源が有る状態で、防災拠点とした多目的ホールを市役所の近くに設けるべき。	基本計画（案）の 14 頁にお示ししていますように、本施設は図書館、市民活動施設（公民館機能）、ホール等の機能を一体的かつ有機的に配置し、市民の学習や交流、文化活動を支える拠点として整備を進めることとしています。 また、隣接する池田総合体育館は広域避難所に指定されており、新施設は同施設と連携し、災害時における支援物資の物流拠点など、防災支援拠点としての役割を担うこととしています。
2	ここの土は鉛汚染されており、その土を移動するには莫大な予算が必要です。鉛は乳幼児に対してとても危険です。そんな場所に子供たちの施設計画には疑問しかありません。 また、船井電機が建てられていた土台の鉄筋柱はその撤去にも莫大な予算が必要です。マイナス資産を船井電機から押し付けられた土地です。何もしないでそのまま保管して下さい。	基本計画（案）の 35 頁にお示ししていますように、船井電機跡地の整備にあたっては、土壌汚染等の状況について調査を行うこととしています。 なお、土壌汚染の状況を確認するための調査経費については、令和 8 年度当初予算に計上しており、今後、関係法令に基づき適切に対応してまいります。
3	計画案 2 頁にある通り、人口動態から考えて図書館等整備する必要性を一切感じない。39 億円の豪華庁舎を作って、その後の維持管理費用の捻出すら覚束ないのが分かっていて、さらにハコモノを作る行政発想に疑問しかない。	基本計画（案）の 8 頁にお示ししていますように、本市では中央図書館の機能不足や中央公民館の老朽化など、既存施設において市民サービスの提供や安全性の確保に課題が生じています。

	計画案３頁にある通り、土壌汚染があった場合に工費が一層跳ね上がる。そもそも、図書館整備しても図書購入費用もままならない現状では、図書館の機能が果たせない。まだ、図書館整備するお金を小中学生個々の図書購入補助として図書券交付でもした方がはるかに安価ですむ。 池田四電ビルが相変わらず上階空いたままとなっていることから、１階に派出所もあって安全なので、どうしても図書館整備したいのならそちらを整備利用した方が安く済む。 船井電機跡地は、データセンター誘致をした方が自治体収入の涵養になる。ホールを作っても税収も入らない、仕事も生じない。まして東隣の美馬市にずいぶんきれいなホールがあるのでそちらを利用時にレンタルした方が安く済む。意味のないハコモノを作って、固定資産税や住民税が甚だしく世間水準から「高い」という状態を改善しようともしないのは、圧政の最たるものとしか見受けないため、少しは市民のためになる行政をやっていただきたい。 本委員会に兄が委員応募したが、選出されなかった。はっきり言って、選ばれた委員の面々では、見識不足の一点に尽きる。能力のない人間をパフォーマンスで委員に選出し、形式だけ審議したという中身のない議論をされると、偏にこの地で日々懸命に生きる「市民の大多数」が迷惑する。行政のあるべき姿の分からん人たちは、行政に就く資格はない。市民本位の行政ができる人間しか、行政には必要ないのでこのような天に唾するような「ハコモノ行政」をやってると、取り返しがつかなくなることは必定である。	人口減少が進む中においては、新たな施設整備に慎重な視点が求められる一方で、中心市街地については市内の暮らしを支える拠点としての役割を担うこととしており、本計画においては、老朽化施設の集約と機能の複合化により、効率的かつ持続可能な施設整備を図ることとしています。
4	三好市人口推定（2050 年）9,000 人程度と推定しながらホール、図書館整備計画とはこれ如何に？少子高齢化で消滅自治体の道をまっしぐらではありませんか？三好市の人口調査もパフォーマンスだけではありませんか 意味のない実体調査に税金を浪費するだけで何ら対策もしないのは行政では「ゾンビ行政」民間では「ゾンビ企業」と申します。 ゾンビ企業＝銀行などの支援で生き延びる　ゾンビ行政=2 割自主財源８割の交付金で生き延びる　国は国債➡子供(地方自治体)で生き延びる　この構図を変えることに努力してはいかがでしょうか	基本計画（案）の８頁にお示ししていますように、本市では中央図書館の機能不足や中央公民館の老朽化など、既存施設において市民サービスの提供や安全性の確保に課題が生じています。 人口減少が進む中においては、新たな施設整備に慎重な視点が求められる一方で、中心市街地については市内の暮らしを支える拠点としての役割を担うこととしており、本計画においては、老朽化施設の集約と機能の複合化により、効率的かつ持続可能な施設整備を図ることとしています。

	０歳から５歳未満の人口は年代別）各年代１００人未満（毎年出生数は減少）になっています。 箱物は市民の利益になりません➡だれの利益になるのでしょう？？　息子が提言したように新しい箱物より今ある「ハコモノ」を活用しましょう。	
5	ホールは 500 席程度。500 人を超える規模の利用については池田総合体育館などを活用との記述箇所。 上記は舞台使用の「芸術部門（音楽、芸能・演劇など）についても記載であるが、これと並ぶ展示の「文芸部門（美術・絵画、書道、生け花など）の「ホール・空白は「大欠落」。 「ホール」舞台は、2 層伸縮（「楽団」スペース挿出入可能）式とし、『「ホール」客席』は固定階段式で、1 階：800 席、2 階：400 席（体育館使用不要）とする。 基本計画（案）には欠落の「展示の文芸部門」は、「吉野川市文化研修センター」を参考とした「徳島県展：書道作品標準サイズ（高さ 8 尺)」も展示可能設計で、また、「ロビー、会議研修室等」の合同で「ホール（180 席)」にも変身可能という。以上の「設備（スペース：2,000 ㎡）を提起提案する。 県西の要衝☆四国中央部☆隠田部落（祖谷)・ジオパーク☆「非核平和宣言」の我が「三好市」にふさわしい新「文化施設（市政 1 周年記念（2006.6.2、市「総合体育館」)、市民も合唱参加、聴衆千名超での「ベートーベン第 9 演奏（但し救急車の音が入った)」での「こけら落とし」は「「ベートーベン第 9 演奏」がふさわしい。これが今の私の理由と思い！みんなの「力」で更なる発展を。 今後の課題「徳島県西部県民局三好庁舎との合築」の「県民局三好庁舎（含む:駐車場)」の合築も「移転・新築」も反対である。 「合築」反対理由 ①市所有の現「船井電機跡地」のスペースが減少するから（デメリット） ②「メリット」が考えられまい。	基本計画（案）の 15 頁にお示ししていますように、ホールはこれまでの利用実績等を踏まえ、500 席程度のホールを整備することとしています。 また、基本計画（案）の 20 頁にお示ししていますように、展示会など多様な文化活動については、多目的スペース（屋内広場）との連携により対応することとしています。 徳島県との合築については、県と市の連携強化に加え、建設・管理コストの抑制や災害時における対応力の向上などの効果も期待できることから、合築に向けて協議を進めることとしています。

6	船井電機跡地施設整備基本計画（案）を拝見し、是非とも2つのことをお願いします。 先ず一つ目は、ホールの座席は固定席でお願いします。固定席にすることにより舞台周りや音響に関する設備面でより充実した設計が可能になります。また、観客席の傾斜角度も自由に設計できます。それにより舞台利用者にとっても、観客にとっても双方に快適な空間が生まれ素晴らしい環境になると思います。さらに、固定席にすることにより、建設コストの軽減やランニングコストを大幅に抑えることができます。是非、お願いします。 田舎町の小さなホールで、ピアノ演奏会。弾いててなんて気持ちよかったのか。観客からも、素晴らしい演奏会だった。遠くから聴きに来て良かった。こんな声が聞こえてくるホールにしてほしい。 もう一つが、駐車場の確保です。 仮に６００席のホールができるとなると、それだけの人が集まります。付随する図書館等の利用者や職員もいます。ほとんどの方が乗用車利用です。公用車等も相当数あると思われます。駐車場の確保は不可欠です。 さらに、徳島県の庁舎を併設するとなるとなおさら駐車場は不足します。県施設を併設する場合は、立体駐車場等を徳島県に建設していただく等、三好市にプラスになる良策を講じていただきますようお願いします。	ホールの座席については、基本計画（案）の15頁にお示ししていますように、500席程度の固定席を基本として整備することとしています。 駐車場については、必要な駐車台数の確保や配置について、今後の設計過程において検討してまいります。 なお、徳島県西部総合県民局三好庁舎との合築については、県と市の双方で調整すべき事項が多岐にわたることから、合築に向けて協議を進めることとしております。その協議の中で、駐車場の効率的な確保や整備の在り方についても、市民の利益を最優先に、徳島県と必要な調整を進めてまいります。
7	第3章 新施設の整備方針の中で、ジオパークについての言及が一言もないことに違和感を覚えている。 新ホールに「ジオパークの情報発信施設」の併設をお願いしたい。市内の方々には三好への愛着を深める場となり、市外からの訪問者には三好エリアの理解を深めていただくことに繋がる。また、雨時に数十名（観光バス１台分）の方々が楽しめる場所としても活用できる。そのためには単なる情報発信施設ではなく、体験コーナーを設けたものにしてもらいたい。 新ホールの北側斜面は中央構造線の断層崖として重要なジオサイトです。そこで、自由に見学できるスペースの確保をお願いしたい。その場合、新ホール内でなくてもよくて、北側に自由に立ち入ることができて、数十名程度	新施設は「つなぐ・つながる」を基本理念に掲げ、これに基づいた基本方針に沿って施設整備を進めることとしています。また、20頁の「多目的スペースとの連携と賑わい創出」にお示ししていますように、展示会やワークショップなど多様な活動については、多目的スペース（屋内広場）との連携により対応することとしています。 こうした空間を活用することにより、ジオパークや地域資源に関する情報発信や学習活動、市民と来訪者の交流などについても柔軟に対応していくことが可能であると考えています。 北側斜面の見学環境の確保等につきましては、施設配置等を踏まえながら、今後の設計過程において参考とさせていただきます。

	が見学できる広さがあればいい。三好が日本ジオパークに認定されて以降、エリア内外からの来訪者が増えている。また市民もジオパークに興味関心を持ち始めている。そのため情報発信基地・学習拠点の充実がもとめられている。そこを拠点に基本方針にある「エクスカーションやフィールドワーク等への展開」がはかられる。また、新ホール北側の斜面は「中央構造線の断層崖」としてジオサイトとなっている。市街地の中を断層が走っていて、そこで大地と共存して生活している風景は全国的にもめずらしく貴重である。	
8	幼児等と児童等でおおまかに遊べるスペースを分ける予定なのか。また、スタッフ等常駐ではなく、利用者の裁量に任せる方式なのかが気になる。可能ならば大まかな年齢で遊ぶ箇所が分かれる設計だと嬉しい。土日祝も利用できるようにしてほしい。東みよし町オアシス内『すくすくの森』では、住み分けが上手くいかず、幼児や保護者が安心して過ごせない状況がたまにある（『すくすくの森』設置の自由記述ノートに詳細あり）。利用について困ったこと（例：危険な遊び方、占有など）があるときに、スタッフがいてくれたらありがたい。 駐車場計画について、従来の船井跡地で確保できている駐車台数の確保はできる予定なのか。または、市内別スペースを設けるつもりなのか。市全体でどのような計画なのか気になる。 現在阿波踊りシーズンなど、周辺の交通に影響があるほど交通量が増えるが、施設建築後駐車場不足などにより大きく混乱を招かないか心配。 施設利用については、市民利用をメインに据えるのか、または市街利用者を多く見込む利用制度にするのかが気になる。また、管内の治安維持をどのように図るのか、具体的な対策があるのか。市民が利用したいのに、市民以外の利用客で使うことができない、ということにならないか心配。実際、市内の『箸蔵とことん』では最近県外ナンバーの車が多く、天気の悪い土日などはキッズスペースがぎゅうぎゅうで使いづらい。子育て世代の親にとって屋内の遊べる場所は貴重なので、需要がキャパを超えないか懸念がある。また、誰でも使えるので、不審な人が子どもに近づかないか心配。	キッズスペースについては、基本計画（案）の 20 頁にお示ししていますように、子育て世代等が安心して利用できる屋内型の遊び場として整備を検討することとしています。乳幼児から児童までが安全に過ごすことができる環境の確保を基本とし、年齢に応じた利用への配慮や見守り体制などについては、今後の設計および管理運営の検討の中で対応してまいります。 駐車場については、現在、船井電機跡地では阿波踊り等のイベント時に約 400 台程度の駐車が可能となっていますが、施設整備に伴い敷地の一部が建物や広場として利用されることとなります。現在の利用状況やイベント時の影響等を踏まえ、必要な駐車台数の確保や配置について、今後の設計過程において検討を進めます。 本施設は、市民の学習や文化活動、交流活動を支える公共施設として整備するものであり、市民をはじめ多くの方に親しまれる施設となることを基本としています。利用ルールの設定や防犯面への配慮などにつきましては、利用者が安心して利用できる環境を確保する観点から、今後の管理運営の検討の中で適切に対応してまいります。

9	四国中央部に位置する交通の要衝は過去の事であり現在の状況と一致しない。JR にしても便数は少なく輸送料も限定的であり高速道路の要所は隣の四国や市に移っている。ましてや、自家用車でのアクセスは船井跡地は最悪である。 施設の内容としては平均的な内容でこれといった目玉が無く将来的に他の同施設と同じ様に運常が難しくなりそうです。 前提として地の利は過去の事で他地区より呼び込むのは考慮に入れず、地域のコミュニティーに重点を置き、普段から、最寄品を購入出来る道の駅の様な自然と人を導く施設を併設してほしい。また新池の水上公園化や、袋小路になっている駅裏の利用促進の為、税務官舎横から池田大橋に向けてトンネルを掘ってほしい。そうすればアクセスが良い。 施設は作って終りで無いと思います。50 年、100 年後に向けて三好市（池田）はどうするべきか、都市計画も視野に入れていかなければ、山中にトンネルを掘る予算が有るのならもう一度池田町（旧町内）はどんな場所かもう一度見直し、この跡地を利用しやすくする事が大切だと思います。	基本計画（案）12 頁にお示ししていますように、アンケートやワークショップの結果から、子育てや学習、交流、飲食など、日常生活に身近な活動を行える拠点整備への要望が多く寄せられており、新施設では市民が日常的に立ち寄り、交流できる居場所となることを目指しています。 また、21 頁にお示ししていますように、カフェ等の飲食・滞在スペースの整備を検討しており、地域産品を活用などを通じて、地域の魅力発信や賑わいづくりにつながる活用も想定しています。 ご提案のありました周辺環境の活用やアクセス性の向上、都市計画の視点につきましては、今後のまちづくりを検討していく上での参考とさせていただきます。
10	船井電機跡地は、三好市初代の俵市長時代に、船井哲良会長が「三好市市民の為の施設の文化ホールを建設するのであれば寄付したい」と申し出られ、当時の固定資産評価額およそ 4 億 5 千万円の土地を購入し、三好市に寄贈されたものです。 船井氏は贈呈式前の講演で、戦時中に疎開先として三好市にお世話になった思いを語り、その恩返しとして寄付をすると述べられました。 このような経緯を踏まえると、県の施設である分庁舎を合築する計画は、本来の趣旨とは、異なるものであり、三好市と船井哲郎氏との約束にも反するものと言わざるを得ません。県の分庁舎合築計画はいったん見直すべきではないでしょうか。 そもそも船井電機跡地整備基本計画は、多目的文化ホール、図書館、公民館の市民のための施設を整備する計画であると市民に理解されて来ました。 この土地は、故・船井哲郎氏が「市民のための施設に」と寄贈をしてくだ	基本計画（案）5 頁にお示ししていますように、船井会長は寄贈にあたり「人が交流し、成長できる拠点にしてほしい」と述べられており、本計画ではこの趣旨を踏まえ、図書館、市民活動施設（公民館機能）、ホールなど、市民の学習・文化・交流活動を支える公共施設の整備を進めます。 また、徳島県西部総合県民局三好庁舎との合築につきましては、県と市の双方で調整すべき事項が多岐にわたることから、合築に向けて協議を進めることとしています。 今後も船井会長の思いを大切にするとともに、市民の利便性や施設機能の確保に配慮しながら検討を進めてまいります。

	さった、三好市民にとって大切な財産です。特定の個人や行政のものではありません。にもかかわらず、突然示された県施設の合計画は、船井氏の思いや市民の意向に沿った利用とは言えず、三好市政への信頼を失う恐れがあります。 また、多くの市民は、この場所に県の分庁舎を合築することは望んでないのではないでしょうか。	
11	Ｐ２やP4の1-5立地（ロケーション）において、市内のみならず、四国全域からの来訪にも対応可能な立地特性を有しています。と述べているにもかかわらず、この計画で言っている交流とは市民のみの交流を想定しており、四国全域からの交流は前提としていないので座席は500で十分という考え方です。四国全域からの各種団体からの四国大会を誘致するには、最低700程度は必要であり、何も興行のみを望んでいるわけではありません。 今後のこの地域の将来を考えると定住人口の減少はさけられず、四国全体からの交流人口を増やす以外、将来への展望は開けないと思います。この計画は今後の地域の活性化、あるいは衰退防止のための経済的視点が抜けていると思います。市民同士が集まりいくら交流してもそれだけでは地域は衰退します。	本施設はホールの利用に加え、多目的スペース（屋内広場）や周辺施設との連携により、講演会やシンポジウム、各種会議、研修会など多様な催しに対応できる施設として整備を進めることとしています。 また、小規模から中規模の会議・研修などの開催（地方におけるMICE等）と地域の自然や文化を体験するプログラムなどを組み合わせることで、滞在や市内回遊を促し、地域経済の活性化につながる施設の活用についても検討してまいります。 いただいた広域交流や地域活性化の視点に関するご意見につきましては、今後の施設整備や運用を検討していく上での参考とさせていただきます。
12	三好ジオパーク情報を市民および市外からの来訪者に向けて発言する機能を持った施設が求められています。情報発信機能を持った施設は、三好市の中心地の池田町にあるべきです。市民と地域外からの来訪者が地元の自然や歴史文化を話題に交流する場所として活用されることが期待されます。 ジオパークを目的の来訪者はここで三好ジオパークの各サイトの情報を入手して、どのサイトを訪問するか決めることができます。幸い重要なジオサイトである池用断層・断層崖も近接しているので来訪者にとっても利便性が高い。併せて、世界農業遺産に指定されている傾斜地農業システムの情報発言を行う機能も併設することもよいかもしれない。 三好ジオパーク認定審査の折には、ジオパーク情報の発信機能強化を求められていることがあります。三好ジオパークの情報発信拠点としては、大歩	基本計画（案）20頁にお示ししていますように、本施設では多目的スペース（屋内広場）と図書館、市民活動施設（公民館機能）などを連続した開放的な空間として整備し、展示やワークショップなど多様な活動や交流イベントに対応することとしています。 こうした空間を活用することにより、ジオパークや地域資源に関する情報発信や学習活動、市民と来訪者の交流などについても柔軟に対応していくことが可能であると考えています。 いただいたジオパークなどに関する情報発信のあり方につきましては、今後の施設活用や運用を検討していく上での参考とさせていただきます。

	危峡まんなかにある「とこジオ」1 か所だけで、現在東みよし町のハイウェイオアシスに情報発信拠点が整備されようとしているが、小規模な拠点となる模様。三好市の中心部において市外からの来訪者に向けて情報発信することであるとともに、市民が来訪者と交流する施設が必要とおもう。	
13	当初、総合文化ホールの建設で計画されていたように思っておりましたが総合文化ホールではなく多目的ホールとなるようなことをお聞きいたしました。池田文化協会としては残念という他ありません。ただ席数は 600 席、固定席と文化協会が要望していたようにほぼみたして下さっているようです。是非とも固定席にして下さるよう再度お願い申し上げます。	基本計画（案）15 頁にお示ししていますように、ホールは市民の文化・教育・交流活動を支える場として整備することとしており、市民の文化活動や教育活動、講演会、シンポジウムなど、地域交流を伴う催しに対応できる 500 席程度のホールとしています。 また、ホールは固定席を基本とした構成とすることとしており、施設整備の詳細については今後の設計段階において検討してまいります。
14	図書館の 10 進分類の（４）自然科学あるいは特別コーナー（三好ジオパーク関連）を設け宣伝してほしい。また、船井跡地に三好ジオパークのガイドスポットを組み入れてほしい！ 2024 年 10 月に三好ジオパークが全国 47 番目に認定されました。産業のない我が三好市はこの機会に観光に力を注ぐべきだと私は思います。日本最大の断層帯である中央構造線は池田の町を真二つに横断し、そして 2 万 7000 年かけて 30m隆起した。上野が丘は、日本を代表する断層崖とよばれ、みよしジオガイドはこの跡地でツアー客に大地の大ロマンとガイドしています。丸山、新山、阿讃山脈、四国山地のなりたちもこの場所でガイドされております。出来るなら、四国の写真看板を設置し（四国の中心（へそ）あることが一目でわかる。）ガイドできるスペースを設けて欲しい。地域の進化の痕跡は地表のいたるところで残されている。それを体感するのがジオパークです。沈み込み帯に位置する日本列島のなりたちの解明につながる情報の詰まった、いちばん重要な地域、それがここなのです。縮小する自治体の中、ヒット&アウェイ、防御と攻撃。未来を託す若者達、子供達に、希望ある複合体を創造してやってください。	基本計画（案）20 頁にお示ししていますように、本施設では多目的スペース（屋内広場）と図書館、市民活動施設（公民館機能）などを連続した開放的な空間として整備し、展示やワークショップなど多様な活動や交流イベントに対応することとしています。 こうした空間を活用することにより、ジオパークや地域資源に関する情報発信や学習活動、市民と来訪者の交流などについても柔軟に対応していくことが可能であると考えています。 いただいたジオパーク関連資料の充実やガイドスポットの設置などのご提案につきましては、今後の施設運営や活用を検討していく上での参考とさせていただきます。

15	船井会長の寄贈時点では総合体育館のみの交流施設でしたが、その後「真鍋屋」「ミライケ」と増設され、3 かの交流場所が完成している現在、新しい構築物が必要でしょうか？収益をうまない「消費型資産」は後々「負の資産」として建築費・維持・管理費が財政の重い負担になりませんか？ R6 年 12 月国交省が既存建物の有効活用を推進しているように、改修・増築により費用を押える案も考えても良いのではなでしょうか？ なぜ合築なのですか？市民（三好市）の利用可能な土地では…。ため池は農業用水の為だけではなく防災用水としての役別を果たすので保存すべきです。ヘドロ除去などでもしもの時にも利用可能な状態で整備して欲しい。 「消滅可能性自治体」という深刻な状況の中で国・県の補助金頼りの維持・再生よりも、費用・負債を減らし自治体の収益を上げる方策を望みます。子育て支援だけでなく、企業誘致などの雇用創出や地域の活性化する取り組みをすることで、子育て世代・若者が安心して定住できる魅力ある場所をつくれば「消滅」から脱却可能だと思う。	基本計画（案）の 8 頁にお示ししていますように、本市では中央図書館の機能不足や中央公民館の老朽化など、既存施設において市民サービスの提供や安全性の確保に課題が生じています。 人口減少が進む中においては、新たな施設整備に慎重な視点が求められる一方で、中心市街地については市内の暮らしを支える拠点としての役割を担うこととしており、本計画においては、老朽化施設の集約と機能の複合化により、効率的かつ持続可能な施設整備を図ることとしています。 また、財政負担や維持管理費については、施設の集約や管理運営方針等の検討により、持続可能な運営に努めることとしています。 徳島県との合築については、県と市の連携強化に加え、建設・管理コストの抑制や災害時における対応力の向上など、の効果も期待できることから、合築に向けて協議を進めることとしています。 なお、ため池の活用や保全に関するご意見につきましては、周辺環境との連携も含め、今後の検討を進めていく上での参考とさせていただきます。
16	新施設の基本理念に関して、そもそも当該地に「人が交流し、成長できる拠点にして欲しい」として、文化ホールの建設を念頭に当時の船井哲郎会長の想いを最大限尊重し、その旨を掲げるべき。行政が寄贈者との信義にもとるべきではない。三好市の地勢的な環境を考えた場合、ホールの規模メインホール（1000 席程度）、サブスペース（同種の施設にもある）、防音設備のついた楽器練習スペース（カラオケを含む）併設を基本とすべき。三好市の四国内外からのアクセスしやすさ。インフラ整備の充実など地勢的環境に鑑みた場合、市内はもちろん市外からの来訪者を見込む施設であるべきで、もっと恒常的に経済的浮揚を指向すべきであると考える。 県施設との合築は論外。現知事は、県民局の機能を縮小するとの意向とのこと。小規模の事業所を船井跡地に建てる理由はない。より適切な代替地は町内にある。	船井電機跡地は、船井哲良会長からの思いを踏まえ、14 頁にお示ししていますように、「つなぐ・つながる」を基本理念とし、図書館、市民活動施設（公民館機能）、ホールなどの機能を相互に結びつけ、市民が安心して集い、活動し、学び、憩うことのできる拠点として整備を進めることとしています。 ホールの規模については、15 頁にお示ししていますように、これまでの利用実績などを踏まえ、500 席程度のホールとして計画しています。 また、本施設はホールの利用に加え、多目的スペース（屋内広場）や周辺施設との連携により、多様な催しへの対応や滞在や市内回遊を図り、地域経済の活性化につながる活用を想定しています。 徳島県との合築については、県と市の連携強化に加え、建設・管理コストの抑制や災害時における対応力の向上などの効果も期待できることから、合築に向けて協議を進めることとしています。

17	北側に中央構造線が通っている。この中央構造線（池田断層崖）は日本でも有数の大断層崖でこのように街中を通っているのは全国的にも珍しい場所です。この景色を休日を含めて観察したり見学できるように建物の配置や環境の整備をお願いしたい。三好ジオパークの大きな目玉のジオサイトである。外国、全国から訪れる地質、地形の専門家やジオパークに興味あるお客様に是非みていただきたい。池田の街の成り立ちを説明する場所としてこの中央構造線（池田断層崖）が見える場所は必要です。	本計画では、基本計画（案）28 頁の外構計画においてお示ししていますように、敷地外周を回遊する遊歩道の整備や豊かな緑の演出などにより、市民が気持ちよく過ごせる外部空間の形成を目指すこととしています。 このことから、今後の設計段階において、建物配置や外構計画の検討に際し、周辺景観や地形の特徴を踏まえ、見学や学習への活用の可能性について検討してまいります。
18	20 年後には人口半減で 10,949 人という見込みもある中、また近隣に三好市地域みらい創発センターがある事を考慮し、既存施設の利活用もすれば、新たに大型複合施設を建設する必要があるのか、再度具体的な数値や金額とヒアリングの実施が必要だと思います。 県民局三好庁舎との合築という場合でも、市負担の建設費、施設維持費、将来の解体費等を少なくとも 40 年コストを推計提示し建設が妥当か選挙をもって判断すべきかと思います。そのコストをかけても必要だと思う民意が多ければ建設すれば良いかと思います。 〇防災施設について どんな施設でも被災して使えなくなる、被災し邪魔（瓦礫）になる可能性があるので、防災面で考慮すると何も建設しないのが一番です。 〇公民館機能について 来館者では無く既存施設の貸スペースの把握と利用率の調査をせずに、アンケートだけで施設整備をすると、ほとんど使われない施設になってしまう可能性があります。利用率が現状のニーズになるかと思いますが、今後の人口減を想定すると（潜在）ニーズは既存施設でまかなえる筈です。 ・中央公民館（解体予定でしょうが現状のニーズ把握の為） ・三好市地域みらい創発センター ・池田体育施設（アリーナ以外） ・三好市保健センター 〇新施設にあったら良いなと思う機能・スペースのアンケート上位 4 つは創	基本計画（案）の 8 頁にお示ししていますように、本市では中央図書館の機能不足や中央公民館の老朽化など、既存施設において市民サービスの提供や安全性の確保に課題が生じています。 人口減少が進む中においては、新たな施設整備に慎重な視点が求められる一方で、中心市街地については市内の暮らしを支える拠点としての役割を担うこととしており、本計画においては、老朽化施設の集約と機能の複合化により、効率的かつ持続可能な施設整備を図ることとしています。 なお、既存施設の活用に関するご意見につきましては、今後の施設整備や管理運営を検討する上での参考とさせていただきます。

	発センターと以下子供の遊び場についてでほぼ解決できるかと思います。特に多くの高校生の下校ルート的にはみらい創発センターが便利。 〇子供の遊び場について こちらも既存施設の利活用でニーズはまかなえる筈です。 ・箸蔵とことん２階「こども広場」※有料利用者数不明 →三好市民の利用についてデジタルクーポンや回数券等で一部もしくは全額補助。 ・吉野川ハイウェイオアシス 2 階「すくすくの森」月間利用者 1,000 人を下回るとの記載（2025 東みよし町議会だより第 75 号 6 ページ） →子育て世帯へ紹介する。施設維持費の一部を三好市からも支出。 ・創発センター　オープンスペース北 →イベント利用時以外は北側のカーペットがある部分は子ども広場という形で子育て世帯へ紹介する。 ・利用率が高くないので１室を子ども広場できるだろう施設：三野体育施設、三野公民館 ・利用率が高くないので１室を子ども広場できるだろう施設：山城公民館 〇図書館について こちらも現在の利用者数からすると既存施設規模の利活用でニーズはまかなえる筈です。	
19	1-6　船井電機跡地について、寄贈にあたり、船井会長は「三好市は、心のふるさと。人が交流し、成長できる拠点にしてほしい」この土地には、市の未来を担う人づくり・交流の場所として活用してほしいという想いが込められています。 　昨今の行政発信のパンフレット、１０年マスタープラン、船井電機跡地開発等、大多数の将来計画を表する文の背景文句にはサスティナブルの意味をはき違えたコンサルタント業者をお使いになっているのか、口を開けば人口減少、人口減少、未来閉塞感の文面ばかり。これからの計画を検討する場面にはそぐわないですね。過去のいきさつを知る老兵としてはその文章の受け	ホールの規模については、15 頁にお示ししていますように、これまでの利用実績等を踏まえ、500 席程度のホールを整備することとしています。 　また、本施設はホールのみで構成されるものではなく、20 頁にお示ししていますように、多目的スペース（屋内広場）や周辺施設との連携により、多様な交流や活動を生み出す拠点となることを目指しています。こうした施設整備を通じて、寄贈の趣旨である「人が交流し、成長できる拠点」としての役割を果たしていくことが重要であると考えています。今後も若年層の意見も踏まえながら施設の整備を進めてまいりたいと考えています。

	取りは「三好市はこの先、人口減少で発展はないのだから、できる限り設備投資を節約して、現在在住の市民は生きながらえましょう」としか聞こえてきません。 　具体的にはホールの規模にばかりこだわり、先人の想いをないがしろにした、三好市民との約束、県庁舎との合築案においても節約感だけを感じさせる雰囲気です（本来ならその費用で徳島市で嫌われている、県民ホールでも引っ張るぐらいの意気込みがあってほしいものです）先人の想いをよそに、未来への希望を募っても、サスティナブルな説得力はありません。 　規模においても 500 席程度のホールを先人は望んだんでしょうか、そのために三好市にご寄贈頂いたのでしょうか。再考をお願いいたします。 　昨今の行政イベントボランティアに参加する高校生たちの考えを伺い、ぞっとしました。町おこしに興味を持っていて参加している高校生でさえも、「また、大学卒業したら戻ってきて活躍してよ」の掛け声に、５人が全員「夢のない街には戻ってきません」ときっぱり言われてしまいました。たかがパンフレットされどパンフレット、嘘は書かなくても、発信者の気持ちが出てしまっているのではないでしょうか。国も高市首相になり色んな意味で変革しています。既存の感覚を一旦リセットしたほうが適切でかなっているのではないでしょうか！ 　最後に、一つ苦言です。町おこし（四国酒まつり）の来場者分析において、他府県からの導入を１０パーセントと分析し、本年の実数計測をも拒否したコンサルタント業者は信用に値しませんし。何よりも私たちは他府県からの参加を目標に数十回してきており、失礼千万。他社で公正な判断をいただきたい。チャレンジなくして発展なし	